2025 年度　山手幼稚園　学校評価表

1．本園の教育理念・教育目標・めざす子ども像・教育方針

（1）教育理念

「子どもをまん中に。楽しい活動と遊びを通して【気づき・考え・工夫する力】を育てる」
子どもたちが「楽しい」という気持ちを出発点として、自ら考え、挑戦し、工夫することを大切にし、一人ひとりの育ちを支えることを基本とする。
また、知識や技能だけでなく、幼児期における遊びや生活を通したさまざまな経験を重ねる中で、意欲、協同性、自立性、粘り強く取り組む姿勢等の育ちを支えることを重視する。

（2）【気づき・考え・工夫する力】を育てる教育環境と教育内容

本園では、子どもが身近な環境に関わり、自ら興味・関心をもって遊びや活動に取り組むことができるよう、次のような環境を整えている。

① 多様な環境を活用した教育
園庭、運動場、大型遊具、四季の自然、砂場、泥んこ遊び等の環境を活用し、子どもが身体を動かしたり、様々な遊びを経験したりできる機会を設ける。

② 自然・動物・絵本・栽培等を活用した教育
自然や動物との触れ合い、図書室の絵本や紙芝居、園での栽培・調理体験等を通して、子どもの興味・関心、豊かな感性、想像力、人との関わり等の育ちを支える。

これらの取組については、幼稚園教育要領に示されている幼児期の教育の基本的な考え方を踏まえ、子どもの実態や本園の教育環境等を考慮しながら実施する。

（3）教育課程等の見直し

理事長、園長、主任、副主任の管理者層において、本園の教育理念、教育目標、めざす子ども像及び教育方針等について振り返りを行った。
その中で、子どもたちの今後の育ちや本園の教育の在り方について確認し、幼稚園教育要領を踏まえた教育課程等の見直しについて検討する機会を設けた。
今後、検討した内容について教職員全体への周知・共有を進め、教育課程及び日々の教育活動の改善につなげていく。

（4）教育目標

「つよいからだとあきらめないで頑張る心」

（5）めざす子ども像

・心身ともにたくましく、のびのびと遊べる子ども
・人の話をしっかり聞き、自分の思いも伝えられる子ども
・いろいろなことに興味・関心をもち、最後まであきらめないで取り組む子ども

・自分のことを大切にし、まわりの人たちにも思いやりをもてる子ども

（6）教育方針

・子どもの中に潜在している可能性を引き出し、発展させ、バランスのとれた人格の育成を目指す。
・「感性」「体力」「知性」を３本柱として、「規範意識の芽生え」を培う。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標・計画

① 登園から降園まで、担任がクラスの子どもたちと共に過ごすことができる体制を整える。
② 子どもが遊びに意欲をもって集中できる環境を整える。
③ 通園バスの先発・後発による登園時間の差を踏まえ、子ども及び保護者への対応を適切に行う。
④ 教育課程について全教職員で検討・見直しを行い、年間計画を園全体で共有する。
⑤ 新任指導及び教員研修を計画的に実施し、教員の資質向上及び保育の改善につなげる。
⑥ 図書室（絵本の部屋）の環境を整え、絵本の貸し出しを行う。
⑦ 行事の実施に当たり、担任が自分のクラスを離れて他のクラスの応援に入る場面を可能な限り減らし、クラスでの教育活動を確保する。

3. 評価項目の達成状況及び取組状況（自己評価）

※評価については、本園で定めた評価基準に基づき実施する。

（1）登園から降園まで担任がクラスの子どもたちと共に行動できるようにする

【評価】 A
【取組状況・評価理由】
前年度から継続し、通園バスの１便・２便を考慮してクラス分けを行い、登園・降園時間を 20 分程度ずらす運用とした。
これにより、担任が登園から降園までクラスの子どもたちと共に過ごすことができる体制を整えた。

（2）遊びに意欲をもって集中できる環境をつくる

【評価】 B
【取組状況・評価理由】
室内の遊具を計画的に増やし、室内でも子どもが興味をもって遊びに取り組める環境を整えた。
また、多様な教材や素材を準備し、遊びの内容が広がるよう環境の工夫を行った。

（3）保育時間を１班・２班で時差をつけたことに伴う対応を行う

【評価】 B
【取組状況・評価理由】
前年度から継続し、保育時間の時差による保護者の送迎上の負担に配慮し、特別あずかり制度を実施した。実施時間は、１班 13 時 50 分～14 時 10 分、２班８時 30 分～9 時 10 分とした。

（4）保育室を見直し、主体的に遊び込める環境をつくる

【評価】　B

【取組状況・評価理由】

子どもの室内での動線等を考慮して保育室の環境を見直し、室内での遊びが充実するよう環境構成を行った。

（5）新任指導及び教員研修を計画的に行う

【評価】　A

【取組状況・評価理由】

府教育センターで実施された新任研修への参加に加え、主任・副主任・教員が「ECEQⓇステップ 4 公開保育」に参加し、主体的な保育について学び検討した。

また、3 月には教職員で「大阪府市立幼稚園教育研究大会」に参加し、他園の実践等について学ぶ機会を設けた。

研修・研究大会への参加後、その内容を職員間で共有し、各職員が今後の実践について考える機会とした。

（6）図書室（絵本の部屋）を充実させ、絵本の貸し出しを行う

【評価】　A

【取組状況・評価理由】

絵本や紙芝居を活用するとともに、1 学期から年長・年中、2 学期から年少の絵本の貸し出しを開始した。

貸し出しを通して、子どもが絵本に触れる機会を設けた。

（7）行事練習時、自分のクラスを離れて他のクラスの応援に行く場面をできる限り少なくする

【評価】　B

【取組状況・評価理由】

学年で行事を支援する体制があり、担任が自分のクラスを離れる場面があった。

一方、マーチング以外の場面では、担任がクラスを離れる場面を減らすことができた。

今後も、行事の実施方法や内容について検討する。

4. 学校評価の具体的な目標・計画の総合的な評価結果

【総合評価】　B

本年度は、保育時間の設定、保育環境の整備、教育課程の見直しに向けた検討、教職員研修等について取組を行った。

（1）保育運営体制

保育時間について 2 部制の運用を行い、1 班 9 時 30 分から、2 班 10 時 10 分から全員着席・出欠確認を行う体制とした。

これにより、クラス単位での活動時間を確保する取組を行った。
一方で、子ども主体の保育を実施するための教育課程や具体的な保育計画については、引き続き検討する必要がある。

（2）組織運営及び管理職層の連携

各学年への副主任制度を導入し、学年内の調整や情報共有を行う体制を整えた。
また、理事長、園長、主任、副主任による協議の機会を設け、本園の教育理念、教育目標、めざす子ども像、教育方針等について振り返りを行った。
その中で、本園の教育の在り方や教育課程等について検討する機会を設けた。
今後は、その内容を教職員全体に共有し、教育課程及び教育活動の改善につなげていく。

（3）研修体制

新任研修、ECEQⓇステップ 4 公開保育及び大阪府市立幼稚園教育研究大会への参加等を通じ、教職員が保育について学ぶ機会を設けた。
また、研修等で得た内容について職員間で共有し、日々の保育について考える機会を設けた。

（4）総括

以上の取組を行った一方、教育課程の園全体での共有、子どもの実態に応じた保育環境の改善及び教職員の共通理解については、引き続き取り組む必要がある。
今後は、本年度の取組結果を踏まえ、教育課程、保育環境及び教職員研修等について継続的に検討し、教育活動の改善を図る。

5. 今後取り組むべき課題

（1）個々の子どもに寄り添った教育を行う

子ども一人ひとりの状況や育ちについて教職員間で情報共有を行い、子どもの発達や実態に応じた関わりを行う。

（2）教員の資質向上・研修の充実

管理者間の協議で確認した教育理念・教育方針及び教育課程等について、教職員全体への周知・共有を進める。
また、研修や研究大会等で得た内容について職員間で共有し、日々の保育の改善につなげる。

（3）教育課程・保育内容の充実

幼稚園教育要領を踏まえ、本園の幼児の実態、園の環境及び教育活動の実施状況を確認しながら、教育課程及び指導計画等の見直しを行う。

（4）保育環境の改善

子どもの遊びの状況や動線等を踏まえ、教材、遊具、保育室等の環境について必要な見直しを行う。

（5）行事の在り方の検討

行事の実施が日常の教育活動やクラスでの活動に与える影響を確認し、教育的意義及び実施方法について検討する。

6. 学校関係者評価

【評価結果】

本園の自己評価及び今後の改善方策について、妥当であると評価された。

7. 財務状況

公認会計士による監査を実施している。